

山形市方言の原因・理由表現

竹田 晃子

(1) はじめに

山形県山形市方言の原因・理由表現について、「原因・理由表現 調査項目一覧」に掲載された全ての調査項目にしたがって報告する。

山形市は山形県の県庁所在地で、内陸のいわゆる村山地方に位置する。同地方に属する天童市（北）、上山市（南）、山辺町（西）に囲まれ、東は奥羽山脈を経て宮城県仙台市に接している。東北的な特徴として、カ行・タ行の濁音、無型アクセント、格助詞の不使用、アスペクト形式（継続・過去）の「テダ（ッダ）」などがある。一方で、自発の「ル」・可能の「イ」・当為の「ンナネ」などが用いられる他、連母音アイが融合しない場合があり、過去の「タッタ（テアッタ）」が用いられないなど、東北方言に一般的な特徴があてはまらない現象も多い。

原因・理由表現ではもっぱら「カラ」が用いられるが、今回の調査では例文によって「テ」「ンデ」が回答された場合がある。竹田晃子(2007)「東北方言における原因・理由表現形式の分布」によると、1940(昭和 15)年頃には山形市を含む村山地方一帯において、カラとの併用でサケ・サケデ・ハゲなどが回答されたが、1980(昭和 55)年頃の調査結果である国立国語研究所(1989)『方言文法全国地図』第 1 集では山形市では回答されず、今回の調査でも確認できない。

(2) 調査の概要

話者は、山形県山形市八日町出身、1942 年生まれ（調査時 64 歳）の男性である。24～20 代後半を静岡県内で過ごし、30 代から現在に至るまで山形県山形市に居住している。ある程度の共通語と山形市方言を使い分けるが、典型的な山形市方言の無型アクセント話者であり、職場・家庭の両方で山形市方言を使用する。

調査日は 2006 年 11 月 25 日、調査場所は話者自宅で、調査者は竹田である。

調査方法は、話者に調査票の共通語例文を確認してもらい、その場で翻訳した山形市方言を発話してもらった。調査時間は 1 時間弱である。調査者が提案した形式が採用され、発話してもらった場合もあるが、ここでは話者の自発的な発話を中心に採用した。

(3) 文字化について

- ・方言文はカタカナで表記し、該当部分を下線で示す。
- ・複数の例文が発話された場合、その中で最も典型的と思われるものを選んで示す。
- ・複数の形式が使用できる場合、{ } に入れ、/で区切って発話順に列挙した。
- ・文末の「？」は上昇音調を示す。疑問文であっても上昇音調を取らないものには「？」は付さない。
- ・句末または文末における「シタガラー」などア段の長音が無声化する場合があるが、特記しない。
- ・ガ行・ダ行が鼻音で発音されることがあるが、表記上は破裂音と区別しない。
- ・「シ」「ス」「ジ」「ズ」は中舌母音で実現されるが、特記しない。
- ・長音・促音・撥音などの特殊拍が短い場合があるが、特記しない。
- ・例文の方言訳を省略した場合があるが、(調査省略)と表記した。

1 「から」と「ので」の用法

1-1 事態の原因（接続調査を兼ねる）

- 1-1-1 マイニジ アメガ フッカラ センタグモノワ カワガネ。
- 1-1-2 マイニチ アメダガラ センタグモノ カワガネー。
- 1-1-3 テンキ イーガラ、 センタグモノ ヨーック カワゲー。
- 1-1-4 コノヘヤ、 スズガダガラ、 シゴドニ シューチャー デギル。
- 1-1-5 ユンベ オーアメ フッタガラ {ジメンニ/ジメンサ} ミズタマリ デギッダ。
- 1-1-6 コドモダガラ、 ワガラネガッタナー。

1-2 行為の理由（後件のモダリティ制限の調査を兼ねる）

- 1-2-1 タイチャー {ワルイガラ/ワルクテ} * シゴド {ヤスムゴドニ シタハー/ヤスムハー}。
- 1-2-2 タイチャー {ワルクテ/ワルイガラ} キョーワ シゴド {ヤスムハー/ヤスムビャー}。
- 1-2-3 ンー ヨミジ クライガラ、 イッショニ カエンベハー。
- 1-2-4 アガンボ ネデンダガラ、 スズガニ シロ。
- 1-2-5 アガンボー ネデッカラ、 スズガニ シテケロ。
- 1-2-6 アメ フッカラ、 カサ モッデゲー。

1-3 判断の根拠

- 1-3-1a {ホシ/ホシガ} デッタガラー アシタモ テンキ イーベナー。

注：「デッタ」は「デテイダ」のイが脱落、テが促音化した語形で、南東北では一般的。以下、動詞

の「ッダ」については同。

1-3-1b (調査省略)

1-3-2 アノヒト ヒダリテ クスリュビサ * ユビワ ハメッダガラ ケッコンシテ
イルナ。

1-3-3 ンー、 セギ デルシ ネズッポイガラ、 カゼ ヒイダノガモシンネーナー。

1-3-4 サッキ * シンブンハイタズノ オド シタガラ、 ゴジワ スギダナー。

1-4 発言・態度の根拠

1-4-1 アブナイガラ コノ カワデワ アソブナ。

1-4-2 カゼ ヒグド ワルイガラ、 アツギシテ デガゲロー。

注:「～スルトワルイ/～スットワルイ」は「～するといけない」の意で、一般的な山形市方言。

1-4-3 キョーノ スゴド * ミナ オワタガラ、 モー カエッペー。

1-5 理由を表さない用法

1-5-1 スグニ モドツテクッカラ、 ココデ マッテデ ケロー。

1-5-2 イッペンデ イーガラ、 ピラミッドサ ノボッテミダエナー。

1-5-3 オネガイダガラ、 カネ カシテケロー。

1-5-4 クルマ ヨブガラ、 スグ * ビョーインニ イゲ。

1-5-5 ツグエノ ウエサ オイデアッカラ、 オレノ サイフ トッテキテ ケネガ。

1-6 原因・理由節の述語用法 (XはYからだ)

1-6-1 A 「キブン ワルイ。」

B 「アンナニ イッパイ ノムガラヨー。」

1-6-2 A (調査省略)

B 「ニズヨーダガラダベナー。」

1-6-3 A (調査省略)

B 「オマエガ ズローノ ゴドバツカリ ホメルガラデネーガー？」

1-6-4 A (調査省略)

B 「オレガ ズローノ ゴドバツカリ ホメッカラガナー。」

1-6-5 A (調査省略)

B 「ズローバツカリ ホメラレッカラガモ スンネナー。」

1-6-6 A (調査省略)

B 「ソーレワ ハゴブドギ オドシダガランネガー。」

1-7 従属節内のモダリティ表現

1-7-1 伝聞・推定表現など

1-7-1-1 コンヤ * {アメダッテ ユーガラ／アメダソーダガラ} ハヤグ {カエッベ
ハー／カエンベ}

注：「フル（降る）」は言わないこともないが、この場合は「昔の人だったら言わない」とのこと。

1-7-1-2 コンバン アメラシーガラ ハヤメニ カエンベ。

1-7-1-3 コンバン アメミダイダガラ ハヤメニ {カエロー／カエンビャーア}。

1-7-1-4 ドーモー ネズー アルヨーダガラ、 ハヤメニ、 カエルゴドニシタ。

1-7-1-5 アメ {フット ワルイガラ／フッガモ スンナイガラ} カサ モッテキタ。

1-7-2 推量表現

1-7-2-1 アメ フンベガラ、 カサ モッテイゲー。

1-7-2-2 ヤマデワ カーナリ ユギ フッタベガラ、 ナダレガ シンパイダナー。

1-7-2-3 タイシタ アメニ ナラネベガラ、 カサワ モッテイガネ。

1-7-2-4 ソトワ サムイベガラ、 * アズギシテ イグビャー。

1-7-2-5 コノ ブンダド アシタモ アメダベガラ エンソグワ チューシダベ。

1-7-3 丁寧表現

1-7-3-1 チョット ハナシ アッカラ、 コッチャ {キテモランネベガー／キテモラン
ネベガッス}。

注：場面の違いによっては、丁寧語「(ッ)ス」が付く場合がある。

1-7-3-2 キケンダガラ、 カケコミジョーシャワ ヤメンベ。

注：「危険です～」にすると、標準語例文と同じになる。

1-7-3-3 リョーシン キテルンデ、 キョー * チョット ハヤイケド カエラシター
モラッテ イーベガー。

1-8 文末用法

1-8-1 倒置

1-8-1-1 コゴデ チョット マッテデー。 スグ モドッテクッカラ。

1-8-1-2 チョット ゴセンエン カシテ、 * ゲズマズマデーニワ カエスガラ。

1-8-1-3 エギマデ ムガエニ キテケロー。 ナナジニワ ツクガラ。

1-8-2 終助詞的用法

1-8-2-1 アドデ モーイッカイ デンワ スッカラ。

1-8-2-2 チョット デカケデ クッケドー、 オヤツ、 プリンガ レーゾーコニ ハ
イッテッカラ。

- 1-8-2-3 オマエノ ゴドワ ケッシテ ワスレナイガラー。
- 1-8-2-4 トーチャンニ ユツテケツカラナー。
- 1-8-2-5 ゴズマデ エギマエノ キッサテンサ イツカラー。
- 1-8-2-6 チョット スーパーマデ カイモノニ イツテケツカラー。
- 1-8-2-7 シャベッタラ タダデ オガネガラナー。

2 「のだから」の用法

2-1 「から(ので)」との相違

2-1-1a イヤ、 ジカン ナイガラ {イソイダ/イソグベ/イソゲ}。

2-1-1b ×ジカン ナインダガラ イソイダ。

注:「ジカン ナインダガラ {イソグベ/イソゲ}。」は言える。

2-1-2 テンキ イーガラ、 サンポニ デカケタ。

×テンキ イーンダガラ、 サンポニ デカケタ。

2-1-3 ウン、 マイニジ アメ フツカラ センタグモノ カワガネ。

×マイニジ アメ フンダガラ センタグモノ カワガネ。

2-1-4 ユンベ オーアメ フツタガラ、 ジメンサ ミズタマリ デギッダナー。

2-2 意味・用法(接続調査を兼ねる)

2-2-1 確かな事実とその当然の結論

2-2-1-1 コンナニ * ガンバツタンダガラー、 コンードワ ウماغ イグハズダ。

2-2-1-2 ダーイジナ ハナシ シテルンダガラ、 コドモラワ アッチサ イツテロー。

2-2-1-3 コツツァー シンケンナンダガラ、 * カラガワネデケロー。

2-2-2 聞き手に関する情報—行動要求・認識要求

2-2-2-1 ワガインダガラ、 イツカイヤ * ニカイン シツパイデ、 クヨクヨスンナ
ー。

2-2-2-2 ジュケンセーナンダガラ モット シンケンニ ベンキョーシロ。

2-2-2-3 セツカグ * リューガグ {スルンダガラー/スンダガラー}、 チャント ベ
ンキョーシテコイヨ。

2-2-3 後件が聞き手の利益になる事柄の場合

2-2-3-1 ズカンワ マダ ジューブン アルンダガラ ユックリ シテイッテ ケロー。

2-2-3-2 チャンスワ マダ アルンダガラ ゲンキ ダセー。

2-2-3-3 モースグ タイーン デギンダガラ、 アド スコーシノ シンボーダー。

2-2-4 倒置

2-2-4-1 カラダニ キー ツケロヨ。 モー ワガグナインダガラ。

注：×「カラダサ」

2-2-4-2 ンー ジブンデ キメロヨ。 モー コドモジャナインダガラ。

2-2-4-3 ソリヤー シンパイスルー。 オヤナンダガラ。

2-2-5 終助詞的用法

2-2-5-1 オレー、 ゼツタイ カレド ケッコン スンダガラ。

2-2-5-2 チョット アマイ カオスト、 スーグ チョーシン ノンダガラ。

2-2-5-3 アノ ヤロド キタラ、 マッタグ サゲグセ ワルインダガラ。

3 接続詞「だから」の用法

3-1 接続助詞「から」の文に言い換えられ、前件・後件が同一の話し手によるもの

3-1-1 サイキン マイニジ アメダー。 ンダガラ センタグモノガ カワガネ。

3-1-2 モー ウジオ デル サンジップンマエダ。 ンダガラ ハヤグ オギロ。

3-1-3 スグ モドル。 ンダガラ、 コゴデ マッテデケロ。

3-2 接続助詞「から」の文に言い換えられ、前件・後件の間に話者交替があるもの

3-2-1 相手の発話中の事態Pを受け、それから導かれる帰結Qを述べるもの

3-2-1-1 A (調査省略)

B 「ウン。 ンダガラ センタグモノモ カワガナクテ コマルー。」

3-2-2 聞き手に結論を求めるもの

3-2-2-1 A (調査省略)

B 1 「ンダガラ ナニヤー。」

B 2 「ンダガラ ナニー。」

B 3 「×ンダガラ？」

3-2-3 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既知の事態Qの原因・理由であると認定するもの

3-2-3-1 A (調査省略)

B 「ソーカ、 ンダガラ * ミナ マダ コネンダー。 ンダガラ ミナ マダ コネンダー。」

3-2-3-2 ユレダガラ レンキュー デガゲンノ ヤندانダナー。

3-2-3-3 アレダガラ レンキュー デガゲンノワ {ヤンダヤナー/ヤندانダヨナー}。

3-2-4 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既に行った発話行為Qの理由であると認定するもの

3-2-4-1 ンダガラ ヤメロツテ {ユッタベアー／ユッタベナー}。

注：「ユッタベアー」のほうが適格。

3-2-4-2 ンダガラ スンナツテ ユッタベナー。

3-3 接続助詞「から」の文に言い換えられず、「あなたもわかっているはずなのに」という話し手の態度を表すもの

3-3-1 「あなたが…と言うから私は～と言う」という発話行為間の因果関係があるもの

3-3-1-1 A 「サッキ タノンダ スゴド、 チャント ヤツテヨー。」

B 「ウン。 キョージュニーワ ヤル。 イマ チョット イソガシ。」

A 「アシタマデワー、 ヤツテケロヨ。」

B 「ンダガラ キョー ヤルツテ ユッタベナー。」

3-3-1-2 A 「キョーワ オネガイ アツテ キタンダー。」

B 「{ナニィ？／ナニヤー？}」

A 「ダイジナゴドナンダー。」

B 「ンダガラ ハナシテミロー。」

3-3-2 発話行為間の因果関係がないもの

3-3-2-1 A 「サッキ タノンダ シゴド、 ヤツテケダガー。」

B 「ン？ ナニヤー？」

A 「ンダガラ ゴゼンチューニ タノンダ、 アノ シゴドヨー。」

3-3-2-2 A 「キョー、 チョード タナガサンサ アッタヨ。」

B 「ドノ タナガサン？」

A 「ンダガラ {キンナー／キンノー} {ハナシタ／ハナシッタ／ハナシタツケー} サンチョーメノ タナガサンヨー。」